

桐鈴凜々

第93号
平成26年1月15日発行
発行責任者
社会福祉法人 桐鈴会
理事長 黒岩秩子
南魚沼市浦佐 5142-1
電話 025-780-4118
FAX 025-777-3731
e-mail
suzukake@rose.ocn.ne.jp
http://www17.ocn.ne.jp/~tourei/

「年子が産み落とされた!？」

桐鈴会理事長

黒岩秩子



今年はどうな年になるのでしようか? 昨年暮れになって秘密保護法だとか、辺野古移設だとか、靖国参拝だとか、怪しげな「事件」が続きました。

昨年は桐鈴会にとって大変な年でした。忘年会で、林幸英施設長が話した言葉を借りると、「うちの理事長は子作りがうまくて、今年は、年子で二人生み落してくれた。これからは、子育てに専念して、子作りはしばらく諦めてほしい」とのこと。

「工房とんとん」「ケアホームおひさま」の年子です。どちらも育てるのに一苦労です。職員、

利用者、誰にとっても新しい仕事、皆それぞれが必死でした。

工房とんとんは、営業のメイソンであるパンがとてもおいしいとの評判を得て、これが何よりの救いでしたが、なんとこれも利用者になかなか増えないということが大変なことでした。

それから、すぐカフェ adobe の利用も多い時には、座りきれないほどになることがあると思えば、一人も見えないという日さえありました。

毎月の赤字! 11月に完成するケアホームおひさまに入居される7人の皆さんが、工房とん

桐鈴会の理念

・終のすみかを目指す
・「迷惑をかけ合える関係」を目指す
・高齢者、しょうがいしゃ、子どもたちが
安心して住める地域を創ろう



とんを利用してくださるのが待ち遠しくなってきました。ところがです。おひさまの建設業者さんに急いでいただいて、11月15日には引き渡しになったというのに、10月初めにはまだ職員が一人も決まらないという状態でした。会う人ごとにお願いをし、市報にも民間の求人を出せないといわれてもお願いをし続けて、求人を見せていただきました。そんなこんな努力の



工房とんとんと渡り廊下でつながっている「おひさま」

甲斐があつて、11月に入ったころには、もうすっかり卒業したはずの森山里子を管理者にして、何とか滑り出せそうになってきました。11月23日見学会、12月2日には竣工式、13人もの申し込みがあつた中から、7人を選びました。その代表として関明美さんが、「埼玉の施設からここに入る事ができて、いいのを作ってくださいあってありがとう」と挨拶、実家が旧大和町五箇なので、家族の方も大喜びでした。昼間は全員工房とんとんに通い、日月の休みの日や、夜をおひさまで皆さん穏やかに過ごしておられます。工房とんとんが、一挙にぎやかになり、朝夕の集まりが、食堂から溢れそうになっています。

すずかけ、桐の花、ひまわり、などの職員や入居者の皆さんが、

とんとんにパンを買いに行った
り、すぐカフェableでランチや
ティータイムをしたり、とても
協力的なことがうれしいこと
です。

多くの皆さんの善意が集ま
ってできている桐鈴会ですの
で、様々な困難を抱えている方々
がいつの間にか集まってしま
う、そんな場所になれたらうれ
しいことだと考えていました。す
ずカフェableは、すでにそんな場
所になりつつあるようです。乳
幼児や障がい児を連れた親子が
集う場所として利用してくださ
っているようで、そんな光景を
見ては、ここができてよかった
と胸が温まる思いをしています。

ケアホームおひさまの年末年始 管理者 森山里子

11月24日おひさまに3人が
入居しました。そして28日に1
人、12月1日に3人の入居者が
それぞれ希望の居室での生活を
始めました。「こんなにいいと
ころで最初の入居者として生活
できることになってうれしい」と
涙を流して喜んでくれた方が

いました。それを聞いた私まで
嬉しくなつて目頭が熱くなりま
した。

それからほぼ一ヶ月が経ちま
した。30歳から57歳までの女性
4人、男性2人の計6人、障が
いも知的障がい、身体障がい、
精神障がい、そのいずれかを合
併している方もいて、本当に「ど
んな人も共に」という言葉が当
てはまるような人たちの生活で
す。

当初なかなか職員が決まら
ず心配しましたが、「週一回くら
いなら宿直ができるから協力す
るわ」という方から、「食事作り
ならやってみたいわ」という方、
桐鈴会の他の仕事をしながら兼
務で宿直や食事作りをしてくだ
さるという方までなんとスタッ
フが12人も揃ったのです。



役員池田豊美さんから、花束
を受け取る関明美さん

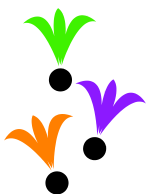
落ち着いた生活をするには
できるだけ少ない人数のスタッ
フでやりたいと私は考えていま
したが、入居者6人にスタッフ
12人というその生活は、予想よ
りずいぶんスムーズに始まり、
毎日が楽しそうな声や笑いに包
まれていきます。時にはホームシ
ックになっている人や、精神状
態が不安定になっている人もい
ますが、入居者とスタッフの中
に不思議な調和が見られるので
す。

また相談支援センターの方、
業者さん、見学の方、ご家族の
方まで毎日なにかと来客が多い
一ヶ月間でしたが入居者の何人
かがさつとコーヒーやお茶で迎
えてくれます。「私の部屋
はとても気に入っているから見
てください」と、すすんで案内
役を買って出てくれる人も
います。

私は4月から工房とんとん
でパン作りとカフェの仕事をし
ていましたが、とんとんに思い
を残しながらこの度、ケアホー
ムおひさまの管理者となりまし
た。この一ヶ月間は、ほとんど
毎日おいしい夕食をおひさまで

いただき、みんなに「お休みな
さい」と言う時間までいて、帰
宅するという生活でしたが、よ
うやく年末には自宅で食事ので
きる日があるようになりました。
思えば30歳代にデンマーク
やドイツに視察に行き、グルー
プホームというものを初めて見
て、障がいのある人でも町の中
でこんなといい、普通の生活が
できるのだなあと思ったことを
思い出します。それから何年か
して前任地六花園で県下で最初
のグループホームを3ヶ所開設
したのでしたが、民家改造ばか
りで、新築のホームは今回が初
めてです。

こういう生活なら自分もし
てもいいかなと思えるようなケ
アホームを運営できたら、私に
とっては何よりの喜びです。新
年になったら7人目の入居者も
決まり、ショートステイも開始
します。またしばらくは大変な
ことも多いとは思いますが、和
やかな生活が続くことを願って
無事暮れの大掃除を終え、新年
を迎えました。



おひさまの竣工式に参加して
入居者 吉楽佳子

12月2日は、始めての式だったので、たくさんの方が来てくれ病気が出たらどうしようかと思っていたのですが、何とか無事終える事が出来、その後花束をもらって食事会も無事終えることができました。名前を早く覚えられると良いと思いました。

私は、このケアホームおひさまに入って最初はどんな事をするのだろうかと思ったり、人間関係は上手くできるのかと不安でしたが、今までのルーズな生活から新しい生活のスタートができてとても楽しいです。最初は少しずつ自分のペースで作業してその後自分の好きな事が出来て満足しています。これからステップアップに向けて頑張っていきたいと思います。皆のサポートがあつてだと思えます。本当に決まった時は何を用意したら良いか分からなかったけど良かったです。私はこれから仕事と大好きな買い物とピアノ、人間関係を大事にして行きたいと思えます。私は最初2年間病院

生活をしていたので上手く動けるか心配していましたが、何とか目覚まし時計を使って朝規則正しい生活が出来るようになりました。私は今までダラダラしていたのに新しい環境が生活にピッタリ合っているのでもとてもうれしいです。朝、夕は食事の手伝いをしたり朝は掃除をしたりとても規則正しく起き、寝ることができています。私はこれからきれいな場所で生活をするのだから部屋もキレイに出来たかなあと思います。最初は分からない事だらけだけど段々と慣れて行けたらと思います。ちょっとずつ病院の看護師さんいわれたように、ありのままの自分で頑張っていきたいと思えます。自分の夢だった、仕事、買い物、ピアノと、どんな趣味を見つけると楽しい生活が出来るとうれしいです。私は一人暮らしがしたくてなおかつ仕事が出来、夢のようです。これから冬になり除雪も手伝いが出来たらと思います。私はダラダラする時はダラダラして、動くときは頑張っていきたいと思えます。

新任職員紹介

・ケアホームおひさま



世話人
関 浩子

魚沼学園を定年退職し、縁あっておひさまの世話人として、週一回当直で楽しく働いています。よろしくお願ひします。



世話人
鎌田眞知子

この度、おひさまで朝夕の食事作りで働かせていただくことになりました。よろしくお願ひします。



生活支援員
塩川マイ子
(とんとん・おひさま兼務)

この度、ケアホームおひさまとすずカフェでお手伝いさせていただきます。よろしくお願いいたします。よろしくお願ひします。



世話人
関矢百合子

この度、おひさまの食事作りをさせていただくことになりました。始めて一カ月経ちますが、皆さんと一緒にご飯を食べ、楽しいひと時を過ごしています。



世話人
塩野谷陽一

当直担当です。オープンしてもう一カ月。介護経験の全くない私には不安がありました。皆さん親切なのでやって来れました。これからもお願ひします。



世話人
森山尚子

魚沼更生園での経験を生かし、入居者の皆様がいつも暖かいホームの中で生活できますよう、見守り、寄り添って行きたいと思えます。よろしく。



・工房とんとん



職業指導員
小島やよい

クランベリーのお目々にチヨコたつぷりのお腹、ふわっとマシユマロみたくチヨコうさぎ焼きあがり。失敗しないよう奮闘中。よろしくお願ひします。



職業指導員
南雲美津子

工房とんとんで美味しいパンを作るようにチームワークで頑張りますので、よろしくお願ひします。



事務員
井口富美子

11月21日からパートで勤務させていただいています。利用者さんとも関わりたいと思っています。よろしくお願ひします。



新年あけましておめでとうございます



ケアハウス 鈴懸



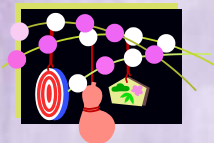
鈴懸おはようヘルプ

本年もどうぞよろしく

お願ひいたします。

新潟県南魚沼市
浦佐5142の1
社会福祉法人 桐鈴会
(入居者、役・職員一同)





グループホーム桐の花



ケアホームおひさま



グループホームひまわり



工房とんとん



秩子の部屋
関薫司（しげじ）さん



《瑞宝隻光章》という賞状と勲章を天皇陛下から頂いたというので、見せてはいただいたもの、皆さんにもお知らせしたほうがいいのでは？と考えて、インタビューに行きました。「郵便局に30年以上いたから」と言っ丸い筒に入っているのを取り出して見せてくださった。戦争中の話になったら、それがあんまり面白くて、笑いどおし。（次頁の山岸さんの戦争体験とのあまりの違いにびっくり）何しろ戦争に行ったって、もう終戦間近になれば、鉄砲をもらっても弾はない。戦う道具などなくて、毎日が暇。していることは、散歩位。戦争が終わって捕虜になっても、同じように暇です。それは何も無い。香港で捕虜収容所に入れられたら、その番兵は、インド人。インド人と日本人は仲が良く、もともと物のやり取りなんかをしていました。それが、終戦で立場が逆になっても同じように食べ物のやり取りなんかをしていた。司令

官のイギリス人が来たら、ぴちっとして、何事もなかったように装う。

私—あなたは、兵隊ではどんな役割だったの？

関—通信兵。もともと1944年9月5日に入隊した時は、新発田連隊。それからビルマに行けということになって、45年の2月に船で香港基地に渡り、基地からは、飛行機も自動車もないから、「行軍」と言っ夜中歩いて移動する。昼間は寝ていて、暗くなっから歩く。通信機器があっ、それを馬に積んで行っただけ、夜の暗い道で、馬が、がけ下に落ちてしまっ。その時勇気のある人が沢に入っ、通信機器だけを取ってきた。

私—馬は？

関—中隊長の命令で見捨ててきた。

私—それっいつ頃のこと？

関—1945年8月だと思っ。「行軍」で歩いたのは、3日ぐらいだっ。

私—戦争末期がそんな状態だっ。たなっ初めて聞きました。戦争が終わっ日本に帰っくる

ときはどこに来たの？

関—香港から鹿児島までイギリスの船で帰っきた。日本の船はほとんどなくなっ。野戦病院の人が一番先、次が、本部。通信兵は本部だっから早かっただらう。1946年2月に家に帰っきた。

私—小学校の同級生の井口ヒデノさんが言っただけ、



《瑞宝隻光章》という賞状と関薫司さん



あなたが級長だっっ？

関—あのころは、クラスの1位から4位ぐらいまでは、中学に進学するから、その勉強のために役職はっかなかっ。進学した者は、軍隊に入っても下士官とかになる。高等小学校しか出ないものは下っ端で、私は二等兵だっ。

私—卒業してからどうしたの？

関—農商青年学校を卒業して、渋谷郵便局に行っ。それから

国立にある「通信講習所」に行っ、ここは給料をもらいな

ら勉強する、寮があっ3食のまんまが出る。ありがたいところだっ。それからまた、その高等部にも行っ。それから事務仕事に代わっ。19歳の時に兵隊に行っ、21歳の時に帰っきた。浦佐に来て、25歳で結婚。妻は上田の農家から嫁いできた。子どもがある程度大きくなっから、大和町の老人家庭奉仕員をしていました。

私—亡くなったのよね。

関—脑梗塞で6年前に亡くなっ。残念です。

私—郵便局では、その後どんなことがありましたか？

関—千手郵便局管理者として千手町（その後川西町、十日町市に併合された）に赴任していきまっ。町内の方々と会合を開いたりしまっ。ここで定年退職しまっ。

私—鈴懸に入っという決断は？

関—子どもたち3人から誘いがかったのですが、ずいぶん悩んだ末、ここに来まっ。結果としてはこれでよかっと考えています。

平和への
願いを込めて④
ケアハウス鈴懸 山岸トヨ



☆小さな妹の亡骸を千人墓地に埋葬

妹の遺体は、母に抱かれて一夜を過ごし、翌朝早々に使役の夫人に運ばれていきました。

隔離室に居る私たちは、埋葬される墓地まで行くことすら許されず、ムシロに巻かれた妹を送ったのです。藁の間からちらっと見えた着物の色は真っ赤で、今でも脳裏に焼きついていきます。享年5歳の短い命でした。

しばらくして隔離室から廠舎（しようしゃ）に戻った時には、相当な死者が出ていた様子でした。あちらこちらにムシロに巻かれた死体が転がっていました。その後も死ぬ人が増え地獄のようでした。12月に4千数百人収容された難民、3月彼岸の頃までに2千人からの死者が出たと言うことでした。

後日、人伝えに墓地の様子を聞いたのですが、余りにも多くの死者が出るため、一人一人の穴を掘るのが間に合わず、細く

て深くながうい、ながうい壕を掘り、遺体を何段にも積み重ねて置き、壕がいっぱいになるまでは土も掛けずに置き、遺体は何日も寒風に晒されていたのだそうです。この墓のことを、避難民の間では千人墓地と呼んでいました。

墓地の場所も判らず、勿論国交のない国ですからお墓参りもできません。

小さかった妹は一人異国の土に眠っています。

☆ロシア兵による婦女暴行や強奪の中での生活

生きた心地もしない生活の中で、夜ともなれば、昼間下見をし、大方の見当を付けておいた廠舎にソ連兵がやってきて、婦女子への暴行や強奪が有り、毎夜何人かの犠牲者が有りました。

初めのうちは、避難民も負けずに、飯盒や鍋など音のするものを叩いて氣勢をあげ、追い返したのですが、最後にはもうその気力もなくなり、相手のなすがままの状態でした。

子供のいる女子には目をくれないので、私達は母子一塊に

なっていました。また、年頃の娘さん達は、頭は丸坊主にし、服装は男物を着ていましたが、それでも見分けて拉致していきましました。悪いことをするのは位の低い兵隊が多く、憲兵の目を盗んで入ってくるのです。

耐えられない程のつらく悲しい日々を送りながら、時は流れ春を迎える頃となりました。

☆鬼気迫る収容所生活

北朝鮮の春は遅く、4月になっても土は硬く凍っています。食糧に飢えた私たちは、廠舎の庭は勿論のこと、柵の外まで草の根、草の芽をさがし硬い土を棒切れで掘り起こして持ち帰り、鍋に入れ、水炊きにして塩気のないまますすり、空腹を抑えています。

もう、この頃はまったく油滓さえ配給が無く、口にいれる物はなにもなかったのです。

どんなものでも、硬い土からちよつと芽を出すと根こそぎ採って食べてしまう。生き残っている2千人からの飢えた口があるから、幾日経っても廠舎の敷地は緑にならないのです。まだ土は硬く凍っていますが、

日中の日差しは少しづつ暖かくなってきました。日向ぼっこは、栄養失調で痩せ細った身体を暖めてくれる唯一の栄養源のような気がしました。

痩せ細り、けだるそうな目をして日向ぼっこしている人の首筋、袖口などからは皮肉にも丸々と肥ったシラミがぞろぞろと這い出してきます。

あまりのひもじさに、自分の身体から這い出してきたシラミを口の中に入れる人さえいました。子供心にも身の毛のよだつ思いでした。

四ヶ月以上も風呂は勿論、着の身、着のまま洗濯も出来ないのですから衛生状態も極限でした。

5月に入り、誰からとも無く脱出の話が始め、結果的には女、子ども連れから先に出ることにになり私たち家族は先発隊でこの収容所を逃げ出したのです。一番小さな妹を、この北の地の冷たい土の中に、一人残して発つ時の母の心中は……

今、この原稿を書きながら当時の母の心中を察し私は涙が溢れてくるのです。（次号終了予定）

大和芸能祭に初出演して

ケアハウス鈴懸 並木昇

秋といえは芸術、歌を歌うのも芸術である。施設内で歌っているだけでなく、発表の場はないものかと思いついたのが大和芸能祭だ。早速公民館を訪ねた。代表者会議にかけて通れば出演できるが明日が締め切りとか。相談する間もなく、鈴懸カラオケ同好会として書類を提出した。運良く後日、大和文化協会から入会の通知が来た。さて誰が出演してくれるだろうか？施設長に相談したら私によるしくやってくれとの事。理事長にお願いしたら快く受けて頂いた。入居者の年配の方に声をかけたら井上さんが受けてくれた。さらに阿部さんも入り3名決まり、私が補欠で申請した。

後日幸か不幸か補欠まで出演出来ることになった。全員ステージで一人で歌うのは初めて。リハーサルで感じをつかむしかない。プログラムが決まり午前

の部で我らのトップバッターは理事長の「鈴懸の径」。日頃忙しく活動している方で練習の時間も少なかつただろうに、堂々と歌い上げた。二番手は井上さんの「夫婦春秋」。相当緊張したと言っていたが、どうして88歳とは思えない歌唱力で歌い上げた。午後

の部は、順番がベテランのカラオケの先生方の間になった、それで気が楽になった。我らは年は大ベテランだが舞台は新米だ。ヘタクソが当然だ。それでも気合を入れてステージに上がった。場内は暗くてお客さんの顔が良く見えなかったが、前列に鈴懸の応援団の顔が良く見えたので心強かった。自分なりに頑張って「イヨマンテの夜」を歌った。我らのトリは阿部さんの「あざみの歌」だ。風邪を押しての出演であったが無事に歌いあげた。皆さんお疲れ様でした。何よりも会場に来て頂いた方々そして応援団の皆様方に感謝致します。

芸能祭が終わって一ヶ月半になるが、見知らぬ人が鈴懸の人たちは上手だったと声をかけてくれる。お世辞でも初めての

出演にしてはまあまあと自負している。来年に向けて更に磨きをかけてガンバロウ！カラオケの好きな方大歓迎！芸能祭が大成功に終わり、鈴懸バンザイ！バンザイ！シャシャンのシヤン！。



お誕生会・クリスマス会・忘年会

「桐の花」

グループホーム桐の花

夜勤専門員 中俣てる子

12月24日「桐の花」では、午前中に利用者さん3名のお誕生会と、午後からは恒例のクリスマス会を開催いたしました。唄あり、踊りありの豪華な幕開けとなり、昼食は皆さん大好物のお寿司でした。普段、食の細かい方もこの日はお箸が進むこと！アツという間に完売となりました。



ろうそくの灯を消す大塚悦子さん、井口ミヤさん

た。この分だとクリスマスケーキは売れ残りになってしまおうのでは…と心配しましたが、余計なことでした。キーキについていた苺を、「あれ、この苺すっぺえな」と言いながらも、嬉しそうに食べている利用者さんを見ていると何だか私まで幸福な気分になりました。

施設イベントの醍醐味は何といっても参加して楽しむことです。利用者さんと職員が一体になれる唯一の場だと私は思います。

「ケアハウス鈴懸」
ケアハウス鈴懸介護員 岡田としい

サンルーム合唱隊のオープニングで開始。今年はゲーム三昧で楽しいひと時を過ごしました。



十日町小唄を踊る
入居者と職員



始めにトランプカード遊び。頭の体操で脳を活発に目覚めさせ、次に職員の体を張ったレースに「誰が勝つか」をかけるのです、当たる度に商品がゲット。

第一のレース、男性職員3人によるトイレットペーパー裂きゲーム。切れずに長く裂いた人の勝ち。優勝者林施設長談「素直が一番。これ優勝のコツ」

第二のレース。水の入ったペットボトルを両膝に挟んでピョピンピョン。優勝者上村談「負けたと思っていました、一位も二位もゴール寸前でペットボ

ルを落としていたなんて、何だか来年縁起がよさそうだわ」

第三のレース。20粒の大豆を割りばしで隣の皿に移す。簡単

なようで難しい。職員と入居者10人でスタート。豆は転がり、急いでいるのでいつものように出来ません。そんな中入居者のYさんの優勝はご立派。「私勝っちゃった。賞品いっぱいもらったの。もういらないわ」です。

ゲームの後「高原列車は行く」の大合唱。列車鈴懸号がさわやかに高原を駆け抜けていき

岸本祐有乃&子どもたち

によるコンサート



岸本祐有乃さん

10月6日(日)、南魚沼市民会館ホール(1200席)で、三用小学校、城内、大巻、大和の3中学校及び六日町高校の吹奏楽部の演奏を岸本祐有乃さんの指揮で聞いていただきました。

高校生以下無料、大人500円のチケット、皆さんのご協力で、何とか赤字にならずに、大きな感動をもたらして終わることができました。

5日(土)の午後と6日の午前中、岸本さんとの練習を経て本番を迎えました。3年前に城内中学校の吹奏楽部の顧問をしていて、岸本さんの指揮をこの地域に広めてくださった関雅美先生から、2日間の感想を寄せていただきました。(黒岩秩子)

ました。

頭と体をたくさん使って、そしてお腹も満腹で今年のクリスマス忘年会は終了しました。来年も良い年になりますように。あつ、庭野サンタもご苦労様でした。



「こんな大きなカステラパン貰っちゃった」
と村山ヨシエさん



ますます膨らむ音楽の魅力!!
コンサート実行委員

関 雅美

コンサートを通して岸本先生のご指導を受けるのは今回で5回目となります。いつも岸本先生の魔法の手で、あたたかい雰囲気にもまれたコンサートとなり、子ども達は十分な満足感をもって参加してきました。岸本先生の魅力は回を重ねるごとにどんどん増していきました。



岸本さんと中高生の練習風景

さて、私は現在「笹舟混声合唱団」という合唱団の指揮者をしていきます。聴く人の心と一体になれる合唱、そして深く心に残る合唱を目指しているのですが、実際に団員の声をまとめるうとすると思うように行かないという悩みがありました。どうしたら私の思い描く方向の合唱にもっていけるのだろう・・・小澤征爾さんが、「テクニクはいらぬが、あると助かる」と何かの折におっしゃっていただきました。音楽が好きということだけが取り柄の私ですが、でも「助かる」テクニクがひとつでもみつければ・・・

「よし!せっかく実行委員をやるのだから岸本先生にぴったりと密着し、魅力の技を盗めるだけ盗んでやろう!」と、こ

んな気持ちで2日間を過ごしました。岸本先生の発する言葉、顔の表情、目の表情、声の表情、体の動き、手先の動き、歩き方、お辞儀の仕方、ワインの飲み方、ピザの食べ方……。岸本先生、たくさん盗ませていただきありがとうございます。この場をお借りして御礼申し上げます。でも盗んだものの中で一番の宝物は、「追求することについて妥協しない。」「それでよいか一生懸命自問自答する。」でした。

せっかく手に入れた盗品です。早く自分のものにして活用できるようにしたいと思います。そして次の機会があると信じ、岸本先生に私の指揮者としての成長が報告できるようにがんばりたいと思っています。

小学生にインタビューする
関雅美先生



職員駐車場整備される
―用地所有者に感謝です―

工房とんとん（平成24年度）と、ケアホームおひさま（平成25年度）の新築（事業創設）に伴い職員が増員されたことにより、今までの駐車スペースでは対応できなくなりました。

このため、グループホーム桐の花の北側に用地を所有している地主様（東京都にお住まいの3名様です）のご理解とご協力により、乗用車16台分のスペースを確保させていただき、11月1日から使用することができま

した。本当に感謝です。この場を借りて改めてお礼を申し上げます。

（施設長 林幸英）



赤線部分が駐車スペースです

お知らせ



●ヨーガを練習しませんか？

桐鈴会職員たちと夢草堂で、1週おきの金曜日に井口梵森先生にヨーガ教室をしていただいています。ご希望の方はどなたでもどうぞ。

- ・時間 夜7:30~9:00
- ・参加費 1回1000円
- ・次回は1月24日（金）

●本の割引販売

「桐鈴凜々」前号（92号）、今号（93号）の編集後記で紹介した「最重度の障害児たちが語りはじめるとき」（中村尚樹著、草思社）を割引販売しています。

上記、連絡・お問い合わせは
黒岩秩子まで
電話 025-777-2187

編集後記

前号（92号）の編集後記（井口美賀記）を読み、感動です！



介護の仕事の長い間続けてきた中で、分かったことがあります。私の語りたものは「これだ！」と熱い思いが湧き上がりました。何もかも忘れて何も理解できないと言われてきた重度の認知症の方々が、実際には心の痛みや喜びを感じ（限定的ではあっても）新しいことも受け入れることができる、と実感しました。では障がいを持っている方々はどうなのでしょう？ 泣いたり、大きな声をあげたりしているのを見て「また始まった。まったく。」と思うのか、「何かを伝えたいんだよね。何かを言いたいんだよね。」と見方を変えると、何となく見えてくるものが違ってきます。短時間ではわかりませんが、毎日の地道な繰り返しの中から、一筋の光が見いだせた時には、飛び上がらんばかりにうれいす。私たちが介護職って、ここに喜びを感じられるやりのある職業だと再確認できました。

（星野淳子）